

令和 7 年度 柏原市立歴史資料館等運営協議会

会 議 録

日 時 令和 7 年 6 月 2 日（月）

午後 2 時～ 4 時

場 所 柏原市立歴史資料館研修室

会議出席者

委員

綿貫友子（会長）、網 伸也（副会長）、櫻澤 誠、岡本泰典、

山川 薫 5名

事務局

新子寿一（教育長）、桐藤英樹（教育部長）、裏山恵一（文化財
課長）、山根 航（文化財課参事兼課長補佐兼歴史資料館館長）、
安村俊史（歴史資料館特別館長）、越智勇介（歴史資料館学芸員）

1. 開会（13 時 55 分） 進行・山根

2. 新子教育長あいさつ

3. 委員紹介

4. 事務局紹介

5. 議事【以下、綿貫会長が議事進行】

①令和6年度事業報告

（1）歴史資料館関係 山根報告

（2）横穴管理運営関係 山根報告

〔資料参照〕

【質疑】

○高井田横穴の見学・案内について

委員：見学の申請、延べ人数が増加しているとのことだが、何か要因となるものは考えられるか。

事務局：一昨年にマンガ「やまとは恋のまほろば」（作：浜谷みお）で高井田横穴が取り上げられ、そうした影響が少しずつ現れていることが考えられる。また、旅行会社のツアーの一部として数件見学申請がある。春と秋の特別公開においても、府外の一般の方も多くはないが見学に来ていることから、徐々に認知が広まっていると考えている。

委員：海外の見学者はいるのか。

事務局：研究目的で高井田山古墳を見学する外国人がおり、そのほとんどが韓国からの研究者・学生である。ごく少数ではあるが、欧米からとみられる方々がマンホールカードを貰いに来館することもある。4月に開幕した関西・大阪万博の影響は感じないが、少しずつ海外の方も訪れるようになった印象がある。

委員：韓国企業によって横穴公園内に新設された案内板もあるように、何がきっかけになるかわからない。やはり情報を発信することが重要と感じる。

○高井田横穴の見学者や歴史資料館の入館者について

委員：確認になるが、横穴見学の件数、延べ人数のなかに、ソウル大学からの見学者はカウントされていないのか。

事務局：ソウル大学からは研究目的という事で見学の相談が来た経緯もあり、集計の対象外となっている。見学の申請書を提出した分のみ集計している。

委員：高井田横穴の見学者や資料館の入館者のカウント方法に関して、将来的にそれら

の数字を検討することになった場合、実態とのズレが生じる可能性があるのではないかと。

事務局：ご指摘のように、確かにソウル大学の見学者も含めた方が良いでしょう。入館者については、令和5年度から配布しているマンホールカードの人気の落ち着いたことが、令和6年度の入館者の減少に影響している。館内の見学が目的ではなく、カードを貰うだけで帰る人が多いが、せっかく来たので展示を見ていく人もいます。そうした関係で、資料館に入った方を「来館者」としてカウントしている。

委員：全体の入館者数は減少しているものの、土日祝日の平均入館者数は増加傾向にあるのは、家族連れなどが多く来ていることも予想され、これはこれで良い兆候と考えられる。

○集客強化案について

委員：京都市考古資料館にて「廃寺印」を配布していた（2024年5月～、税込み300円）。周知のように、柏原市には河内六寺など古代寺院が多数あり、他地域ともタイアップして取り組んだら面白いと思う。

事務局：当館が主催した事業ではないため事業報告から除外しているが、2024年4月より大阪府登録文化財所有者の会が主催・作成した「御財印」を窓口横にて無料で押せるようにしている。「高井田横穴」と「寺田家住宅」の2つのスタンプがあり、子どもが押している姿も見かけている。委員がご指摘のように市内には多数の古代寺院があり、近隣の八尾市には由義寺跡などの有名寺院がある。「廃寺印」についても検討してみたい。

○かしわらこども歴史講座について

委員：他館にはない取り組みで注目している。講座後、子どもたちとの繋がりは維持されているのか。

事務局：講座に参加した全員ではないが、秋の横穴特別公開やわらぞうり作りのための準備といったお手伝いに参加してもらっている。

委員：そうした経験が自信や興味に繋がり、今後成長していくのが楽しみである。中学生の職業体験についても、市内だけでなく東大阪市からも来ており、こうした世代を対象に興味を広げていく取り組みは非常に重要である。受け入れる側は大変だと思うが継続してほしい。

○体験学習について

委員：歴史資料館から綿繰機をお借りし、授業のなかで実際に綿繰りをするなど非常に活用している。また小学校として、冬季企画展を見学し「なわなひ」も体験させてもらった。少人数の学芸員で多様なメニューに対応してもらい学校として助かっている。東大阪市、八尾市といった中河内地域の教員と話をする機会には、大和川付け替え学習の場として歴史資料館は欠かせない、ということも聞く。全体の入館者は減少しているが秋季企画展の入館者は増えているということで、具体的な状況を教えてほしい。

事務局：一昨年度の 70 校から昨年度は 75 校と学校数は増えているが、各学校の子どもたちの数が減っているため、一昨年度の 4854 名から昨年度は 4931 名と大きく増加はしていない。過去に約 100 校で 1 万人近くあったことを考えると、現在はその半数になっている。また新型コロナの影響で、校外学習がなくなった小学校が、当館に訪れる機会が途切れてしまい、それがまだ続いている状況もあるのではないかと。ただし、小学校の教員が大和川の付け替え学習について、従来の中甚兵衛中心の説ではなく、当館の展示で紹介している幕府が大きく関与していたという内容に興味を持ち、主体的に学んでいこうという姿勢を強く感じる。そうした関係で、今後もう少し来館する学校も増えるの見込んでいる。

○資料調査・整理と寄贈・寄託について

委員：市内のお寺や個人がお持ちの資料を対象に調査し、かなりの数の寄贈や寄託を受けているが整理・対応に問題はないか。

事務局：世代交代にあたり、家に伝わっている古文書や古い道具などを整理するなかで、当館にご連絡をいただき、文書の内容を読んでほしい、または寄贈したいといった相談が多数寄せられている。非常にありがたいことで、基本的に受け入れているが、将来を考えた場合、どうしても保管スペースの問題がある。そのため、民具については受け入れ方を検討する必要がある。寄託の古文書については、会計年度職員の学芸員とともに、1 年かけて整理するという対応が現在ではできている。現状でのボリュームが限界という気がしているが、受け入れを断ってしまうと、廃棄されるケースも考えられるので、そこは相手と相談しながら、整理・受け入れを進めていきたい。

委員：あまり表には出てこない業務ではあるが、資料を護るという意味では非常に重要な内容である。あまり大きな負担にならないよう、無理のない範囲で進めてほしい。

○国際交流事業について

委員：韓国企業による説明板の設置など、思わぬ展開もあるが、韓国訪問などで新たな知見は得られているのか。

事務局：漢城百済博物館での検討会では、鳥坂寺跡、茶臼塚古墳などを紹介し、高井田山古墳以外にも百済と関係する可能性がある遺跡について意見を交わすことができた。将来的には、漢城百済博物館と連携し、百済をテーマにした企画展や国際シンポジウムを開催したいと考えている。

委員：歴史資料館の新たな展開として非常に期待している。

○所蔵資料や情報のアーカイブについて

委員：これまでも多数の資料の寄贈や寄託があり、国際交流を深めるなど、新たな情報がかなり蓄積されている。そうした近年の調査・研究成果は、柏原の歴史を刊行することで一般向けに周知されていると思う。ただ、予算的な問題もあると思うが、さらに研究者レ

ベルでのアーカイブ化といった情報の保存・公開などを進めることはできないか。

事務局：資料の基礎研究だけでなく、広く展開させることも必要と感じている。古文書のマイクロフィルムの撮影を毎年行っており、それらをデジタルデータ化し、保存・公開することを計画していたが、人的不足のため進んでいない。以前、玉手山古墳群研究会を立ち上げ、『玉手山古墳群の研究』という形で5冊の研究書を柏原市教育委員会として刊行した。先の国際交流で話のあった百済をテーマにした国際シンポジウムなどは、事前に研究会を開催するなど準備が必要だと考えている。

委員：市役所内において他部署へのアピールや連携を取りやすくするためにも、調査・研究の意義を外部に示すことは重要である。

②令和7年度事業計画

(1) 歴史資料館関係 山根報告

(2) 横穴管理運営関係 山根報告

〔資料参照〕

【質疑】

○古文書講座について

委員：年間受講料について、令和6年度の1,000円から、令和7年度は2,000円になった理由は何か。

事務局：大きな要因は、郵送料の値上げ、配布するテキストの増加といった諸経費に関するものである。一方、文化財講座の年間受講料は2,000円で据え置きとなっているが、案内はがきを少なくするなど、なるべく受講料を上げないよう工夫している。

○日本遺産の龍田古道の事業について

委員：龍田古道を訪れた際、説明板にあるQRコードを利用して動画解説を見た。わかりやすく、理解を深めることができる良い取り組みだと思う。にぎわい観光課との連携ということだが、こうした取り組みはどんどん進めてほしい。

事務局：令和6年度から日本遺産の構成文化財に関する説明板へのQRコード貼り付けを始めたが、動画編集が得意な職員がにぎわい観光課におり、動画に字幕や写真を追加するなど、見やすくわかりやすい動画になっている。評判も非常に良いので、現在進めている構成文化財に限らず、将来的には市内の史跡や文化財にも広げていけたらと考えている。

委員：動画をまとめて紹介しているホームページなどはあるのか。

事務局：動画については、日本遺産龍田古道のYoutube公式チャンネル「龍田古道亀の瀬」を設けている。そこで「柏原秘話ヒストリア」というタイトルで公開しており、動画をまとめて視聴することが可能である。

○「柏原の歴史」について

委員：4冊目も刊行され非常に喜んでいる。5冊目の取り組みについて伺う。

事務局：市史が刊行されて50年が経ち、作り直してほしいという声が市民や議員からあがっていた。一般に市史の作成には、編纂室の設置や専門の職員を採用するなど膨大な予算が必要となる。現状の市の財政状況では困難なため、現在いる職員だけで対応でき、また一般の人にも読みやすいような冊子を作成することで、何とか4冊目まで刊行することができた。5冊目の作成について、専門的ではない新しい時代の内容になるのでまとめるのが難しい点もあるが、今年度中に刊行する予定である。

委員：市史が古くなっている、というのはどこの自治体も抱えている課題である。「柏原の歴史」はそうした自治体の参考例になるのではないか。市民だけでなく、研究者にも活用される冊子になると思う。

6. 閉会

裏山課長よりあいさつ

(終了 16 時 00 分)